

映画「杉原千畝 SUGIHARA CHIUNE」感想文

株式会社寺子屋モデル 代表取締役社長 山口 秀範氏

(一般社団法人福岡中小企業経営者協会 会長)

主人公を単なるヒューマニストでなく、愛国者として描いている。敗戦の報を受け「戦いが終わった」という妻に向かって「いや、負けたのだ」と絞り出すように語るシーンがこの映画の見どころであろう。

坂本歯科医院 院長 坂本 文比古氏

(一般社団法人福岡中小企業経営者協会 理事・外部交流委員長)

最近は派手な洋画しか見ていないので、面白いかどうか？半信半疑で参加してみました。ところが、予想以上に素晴らしい映画で、感動した次第です。祖国の大事さに改めて気づき、ヒトとして信念を持って生きるコトの大切さを教えていただきました。今家族を始め、周りの人達にどんどん薦めています。

興和道路株式会社 代表取締役社長 田中 隆臣氏

久々に感動した映画でした。「杉原千畝」という人物は、歴史上の人物として多くのユダヤ人を救ったこと、「命のビザ」を発給したことという程度しか知りませんでしたが、この映画を見て、そのときの時代背景がとてもリアルに描写されていました。また、配役が唐沢寿明、小雪というのがとても良かったです。

野間自動車教習所 取締役 高津 英子氏

杉原千畝の功績は以前より知っておりましたが、コレほどまで日本で取り上げられていることは現在の世界情勢又は日本の戦争に対する考え方が危うい所にあるが為、皆がこの事を再認識する必要があるのではと考えさせられる映画でした。大変感激いたしました。

フォーサイトアクト株式会社 キャリア教育推進事業部 部長 西田 将浩氏

「なんで多くのユダヤ人が虐殺されたんだろう」
あの日から僕の頭からこの問いが離れません。自分や家族の身の危険を冒してまでこの多くのユダヤ人を救った誇り高い日本男児・杉原千畝さんの大和魂を感じ、自分の信念を貫こうと勇気をいただきましたが、それ以上に多くのユダヤ人が殺されたこの残酷な現実を、多くの人に伝える必要があると思いました。

女性（会員知人） ※抜粋

第二次大戦から 70 年過ぎた今、悲惨で目を覆いたくなる戦争の悲劇を容赦なく目の当たりにして、とても重たい映画でした。外交官としての立場や外務省の指示よりも人間として本当になすべき道を迷わず優先した彼の生涯の物語を 1 人でも多くの日本人に、いや世界の人々に語り継いでいく事が大切なのではないかと痛感いたします。

女性（会員知人） ※抜粋

外務省や外交官の仕事について改めて考えさせられました。国の為に有益な情報を集めて報告すること、又貴重な情報を得ても受けた国の指導者がそれを活用できなければ大変残念な結果にもなりかねないと、情報の扱い方を再考するきっかけになればと感じました。

女性（会員知人） ※抜粋

歴史的に見解がわかる事実認識の点がほぼ中立的に描かれていた点が素晴らしい。日本、ユダヤ、ナチス、ポーランドのどの勢力にも過度に肩入れせず、それぞれの個性がそのままに描かれていた。「犠牲者」として美化されてもおかしくないユダヤ人をすら、その性質を短所も含め正確に描こうとする真剣な姿勢が感じられた。彼らの話すポーランド語も聞いていて自然であった。

また、杉原さんやその他の日本人の行ったユダヤ人を助けるための英断・行動を同じ日本人としてとても誇りに感じた。この物語をぜひ子どもや若い世代に知ってもらい、自国についての見識を深めてもらうことを願ってやまない。

男子高校生（会員知人）

私の世代は戦争について話に聞くばかりで、現実の戦争を知りません。戦争にどう対すべきかすらわかりませんでした。この映画を見て、戦争を知らなければいけないと思いました。今は平和に恵まれています。戦争に表れたような人間性は私たちの中に常に存在するのです。